

# 本学学生の水泳に関する実態調査報告

福 原 麻 子  
(体育研究室)

## The Investigation on the Actual Conditions of the Students of This College in Regard to Their Swimming.

Asako FUKUHARA

### 第1章 調査の目的

瀬戸内海に面した広島は泳ぐ機会からしても水泳環境は抜群のようであるが、昨今の海水汚濁のためほとんどの小中学校ではすでにプールの施設、管理が完備し、技術指導に全力があげられている現状である。特に女性にとって泳ぐことが出来ると言うことは、将来子供を育てていく母親としても当然必要であり、同時に社会的役割も大きいと思われる。そこで今回本学学生の水泳に関してどの程度の能力と技術をもっているか調査を行ない、その結果を指導計画の手がかりとしたい。

### 第2章 調査方法

調査対象は被服学科1年113名食物栄養学科108名計221名である。調査期間49年6月上旬～下旬、日本私立短大協会体育担当者研修会の調査様式によりアンケート質問紙で実施した。

### 第3章 測定結果および考察

#### 1. 現在の水泳能力

まず始めの質問に「あなたは泳げますか」と言う問に対し「泳げる」と回答した者178名(82%)「泳げない」と回答した者41名(18%)であった。全国短大地域別からみると率としては良い方であるが、本学学生は100人中約1割半が泳げないと云える。泳げると回答した者の泳ぎを覚えた泳法の種目<sup>1)</sup>は、犬かき62名(44%)平泳58名(41%)横泳6名(4.5%)クロ-

ール8名(6%)背泳6名(4.5%)をあげ、ほとんどが犬かき、平泳ぎから入っている。

#### 2. 泳げるようになった年令

表1 泳げるようになった年令

年 令	人 数(名)	%
～7才	3	1.7
7～10才	95	53.4
11～12才	59	33.1
13～15才	19	10.6
16～18才	1	0.6
18～	1	0.6
計	178	100

泳げるようになった年令については、表1に示す通り、7～10才に95名と最も多く集中しており、つづいて11～12才が59名となっている。これは小学校教育3, 4, 5年において水泳指導の必要性が最も大きいことを意味し、このころに子供達は泳ぎを習う機会がないとなかなか泳ぎを身につけることが出来ないようである。

#### 3. 教えてくれた人

教えてくれた人については、表2に示した通り小学校の先生に教えられたのが最も多く次に友人、父親の順になっている。最も期待した母親からの指導が5.3%と一番低い、これは浜辺、プール等によく母親の姿はみかけるが大抵荷物番ですごしているのが何か大きく影響しているように思われる。

表2 教えてくれた人

	人 数(名)	%
先 生	66	35.0
友 人	47	25.0
父 親	29	16.0
独 自	20	10.7
母 親	10	5.3
そ の 他	15	8.0
計	187	100

## 4. 泳ぎの習得場所

表3 泳ぎの習得場所

	人 数(名)	%
海	63	35.4
校内プール	49	27.5
川	36	20.2
校外プール	23	12.9
その他(湖)	7	4.0
計	178	100

泳ぎの習得した場所については、海が多い、自然環境に恵まれた内海での水遊びから習得する機会が多かったといえよう表3に示す通りである。

## 5. 遠泳経験

遠泳経験については、「遠泳経験があるか」という質問には思ったより少なく全体の27.8%にすぎなかった。

## 6. 泳げないもの

表4 泳げないものの理由

	人 数(名)	%
習う機会がなかった	22	54
水が怖い	12	29
浮くけど進まない	4	10
身体的な要因	3	7
計	41	100

泳げないと回答した者について、習う機会がなかった者には、山村に育ち川もなく学校のプール施設もな

いと云った特殊な例もあり、又小中学校時代に陽転したため学校からとめられた、プール施設が卒業してから出来たこと等をあげている。

水が恐しい者には、ほとんど幼・小学校時代におぼれたり、水におとされた経験をあげている。

浮くけど進まないものは、臨海にも水泳教室にも参加し努力した、10m以内ならなんとかと答えてはいるが、そのほとんどの理由は、呼吸困難になったり、疲労が激しいと体力的な面と気力に乏しいことをあげている。身体的な要因には、腎臓病、虚弱体質等であることをあげている。

更に個人面接の結果、「泳げるようになりたい」「指導があったらぜひ受けたい」と希望したのが、46%で、あとの54%は水を敬遠している。

## 7. 泳ぐことの意義

表5 泳ぐことの意義

	泳ぐ目的ない し意義		指導を受ける 場合の目的ない し意義	
夏暑いから	59	32.6	14	6.8
泳ぐのが楽しいから	37	20.4	12	5.8
レクリエーションとして	57	31.5	42	20.4
身体を強くするため	6	3.3	29	14.0
美容のため	3	1.7	8	3.9
水上事故の時自己を守れる	2	1.1	39	18.9
水上事故の時他人を救える	0	0	3	1.5
水泳の指導者となるため	1	0.6	0	0
泳ぎが上手になりたい	12	6.6	58	28.2
そ の 他	4	2.2	1	0.5
計	181名	100%	206名	100%

本学学生の泳ぐことについての意義づけを更に調査の結果、表5に示す通りになっていた。泳ぐ目的に夏は暑いから泳ぐのは当然のことであるが、レクリエーションの希望が多い、又水泳が上手になりたいよりも、泳ぐのが楽しい方に集中している。

## 8. 水泳指導の意義

表5に示す通り、指導を受ける場合の目的となると、

やはり水泳技術の伸展と泳力の必要性を認めていると同時に水上事故の時自己を守る18.9%も見逃せないようである。

困難のようであるが、効果が無いとは云えない。泳力、必要性、その他を配慮のうえ指導していきたい。

#### 参 考 文 献

#### 総 括

まとめとして水泳初心者の短大期に泳げるようになるには、先に述べたように小学校時代に初めるよりも

- 1) 三沢恵子：本学学生の水泳に関する調査1974. 第25回日本体育学会論集より

#### Summary

1. This is to examine what extent of swimming ability and skill the students of this college have. The results will be used to formulate the plan of training.
2. The items:
  - a. The present swimming ability of the student.
  - b. When did she acquire the ability?
  - c. Who taught her to swim?
  - d. Where did she practice swimming?
  - e. Why can't she swim if she can't?
  - f. The significance of swimming.
3. Further remarks:

I want to let the students aware of not only the development and necessity of swimming but also of the ability of rescuing themselves in case of water accidents. Many people want to learn swimming as one of the recreations. I train the students in consideration of swimming power, its necessity and others.